

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 10	項目名	農業振興計画策定費(中間見直し)			主要な施策の 成果 ページ	65	担当 部署	環境経済部 農林水産課
予算 科目	会計	1	一般会計		総合 計画 体系	分野	農林水産	
	款	6	農林水産業費			基本方針	農業の振興	
	項	1	農業費			施策	農業振興のためのネットワークの強化	
	目	3	農業振興費			当初予算における区分	(新規施策)・拡大施策・重点施策・その他	
事務事業	271	農業振興対策費			↑該当するものを○で囲んでください			

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) 平成21年3月に策定した「草津市農業振興計画」について、計画策定後の国や県の動向や、社会情勢の変化、また本市農業状況の変化に対応するため、当該計画の中間見直しを行った。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 草津市農業振興計画
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) 国や県の動向、社会情勢の変化、また本市農業状況の変化を踏まえ、新たな課題等に対応するための施策を抽出し、今後の農業振興に向けた指針となる計画へと改訂する。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 学識経験者、公募市民、農業者、農業関係機関の職員からなる計画策定懇談会において、8月~11月にかけて計画素案についての検討を3回行った。また、関係部署と調整のうえ、1月中旬~2月中旬にかけてパブリックコメントを実施し、4回目の計画策定懇談会を経て、3月に計画の策定を行った。 なお、改訂の支援業務については、コンサルへ委託した。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
事業費(千円)	内訳・詳細	検討会議委員謝礼 156,000円(24人・回) 消耗品費 2,000円 食糧費 8,000円(48人・回) 通信運搬費 12,000円 委託料 2,981,000円 使用料及び賃借料 7,000円					検討会議委員謝礼 117,000円(18人・回) 消耗品費 2,000円 食糧費 5,920円(37人・回) 通信運搬費 12,000円 委託料 2,797,200円 使用料及び賃借料 7,000円				
		合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	予算・決算額	3,166				3,166	2,941				2,941
	前年度比	-					-				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		辞退(1名)等による委員謝礼減、委員数の減(12名から10名)等による食糧費の減、コンサル委託にかかる入札残によるもの。									
◆平成26年度 事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	0				0	0				0	

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	市の農業振興にかかる各種事業を推進していく指針として、最新の社会情勢に即した計画の見直しが必要である。
	3	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	3	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	法令による義務付けはないが、市の農業振興施策の上位計画として位置付けているほか、環境基本計画、食育推進計画、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、教育振興基本計画等への関連計画に各種施策が位置づけられている。
	3	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	3	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	3	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	3	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	作業内容を精査したほか、コンサルへの外部委託を活用することで効率的に、かつ、事業費を節減することができた。
	2	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	4	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	今後は、当該計画に基づいて各種施策を着実に推進し、進捗管理を行っていく。 次期事業は、計画の目標年度の平成32年度を見据え行う。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	4	当該年度の事業目的を達成できた	基本方針ごとに成果目標を新たに追加し、各主体の役割を示すことでより実効的で身近な計画へと改訂した。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.おおよそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>計画の進捗状況等を検証するとともに、新たな課題等に対応するための施策を抽出し、今後の農業振興に向けた指針となる計画へと改訂することができた。 なお、様々な分野の委員を交えての懇談会により、より幅広い意見を反映させることができた。</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>計画改訂にあたり、市民(消費者)からは、直売所や農業体験、市民農園などの農とのつながりをさらに増やしていくことを望む声があがっており、それらの機会を増やしていくとともに、市民のニーズを的確に捉え、効率的かつ効果的にターゲットに情報提供が行えるようなしくみ・体制づくりが求められている。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>計画の目標年度となる平成32年度には、各成果指標の達成状況の評価を踏まえた計画の総括を実施し、次期計画における新たな施策の展開について検討を行う。</p>					
※平成28年度の 予算措置	予算額 (千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		0				0
	27年度比 積算根拠	0%				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。